



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2021年11月14日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:6名(うち中学生2名)

指導員:5名

テーマ 木の実・草の実をみよう

木々の葉が色づき始めましたが、今年は既に葉が落ちた木(桜など)も多く、冷え込みが足りなかったせいか色の鮮やかさも今一つといった感じです。今回は紅葉を楽しみながら、木の実や草の実を観察して回りました。

種子を広範囲に散布するため、実には様々な工夫が見られます。ルーペも使って次の実の構造を確認しました。

- ①綿毛で風利用: ススキ、オギ、セイタカアワダチソウ、ブタナ、ヒメガマ
- ②翼で風利用: シンジュ、イロハカエデ
- ③動物に食べられる型: クロガネモギ、センダン、サンシュユ
- ④粘着型のひっ付き虫: チヂミザサ
- ⑤鉤型のひっ付き虫: ヒナタイノコツチとヒカゲイノコツチ(茎などの毛の多さや苞基部の付属体の大きさで両者の違いを確認)、コセンダングサ

寒くなってきて、動きまわって目につく昆虫は少なくなりましたが、それでも、10時頃になって気温が上がるとキタキチョウなどが飛び始め、草原では交尾中のトノサマバツタが、木の枝では産卵しそうなオオカマキリが、池の近くではマコタテアカネとオオアイトトンボが見られました。

野鳥では、この時期に飛来して「ヒッ、ヒッ」と鳴いているジョウビタキが目立ちましたが、冬鳥のツグミなどは未だのようです。昨シーズンも見られたアトリやシメの群が来ているという話が聞けました。

川原では繁っていたオオバクサやクスなどが刈られ、地面に掘られたキツネの巣穴が確認できました。巣の近くにあった糞を見るとアケビの種入っていました。キツネは主に肉食かと思いましたが、果物なども食べ雑食性なのですね。毎年、公園管理者に埋められても居心地が良いのか、ずっとここに住み着いています。(報告: 齋竹)



(草が刈られた川原でキツネの巣穴を観察)

<その他観察できたもの>

鳥: ミサゴ、カワラヒワ、メジロ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、シジュウカラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、イカル(声)、ウグイス(声)

虫: ヤマトシジミ、キタテハ、ムネアカハラヒロカマキリ(卵)

花: ブラジルコミカンソウ、キダチコンギク、ブタナ、ホトケノザ、シロダモ(雄花と雌花)

紅葉: アメリカハナノキ、ハナミズキ、アメリカザイフリボク、ベニバスマモモ、モミジハフウ

黄葉: エノキ



赤い色が目立つクロガネモチ



コセンダングサの実



トノサマバツタのペア



アケビの種の入った糞